



新設したクレーン

大型門型クレーン新設

虹技造形スペース有効活用

大型鑄物工場

で造形スペースを有効活用できる。

今後はクレーンを活用し、金型・パイプ以外の造形設備の横持ち作業などの効率化や、場内スペースのさらなる有効活用を図り、これらの取り組みを通じて工場全体の生産効率向上を目指す。

虹技は3日、自動車用プレス金型鑄物や産業機械用鑄物を製造する大型鑄物工場（兵庫県姫路市）に、屋外用の大型門型クレーンを新設したと発表した。今月中に本稼働する。作業や生産効率の向上のほか、玉掛け作業の安全性向上や外部委託していたレッカー費の削減などを見込む。投資額は1億円。

導入したクレーンは日本ホイスト製の門型で、スパン29メートル、長さ12.0メートル、揚程10メートル、吊上荷重は25トン。同工場で屋外用の大型門型クレーンを導入するのは今回初めて。同工場はこれまで、金棒や造形用の大型パイプを移動する際に、外部の大型レッカー車を月2回程度、手配していたため、レッカーの自由度が高まったこと

車が乗車するタイミングでしか金棒などの積み降ろしができず、作業スケジュールの柔軟性や造形スペースの有効活用課題があった。

日刊産業新聞

2026年9月4日(金)付

3面